表面被覆工　九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

□ 工法比較表対象技術　　□ 新規対象技術（調査中）　　□ 削除技

令和8年10月現在

※「活用状況（本省）」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆＝500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上

（注）NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	AVG	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類1 Lv.2	分類1 Lv.3	分類1 Lv.4	技術の位置づけ	活用効果評価	活用状況（本省）※	掲載期間終了技術（終了時期）	生産供給体制（機械保有台数等）	備　考	NETIS HPリンク先（注）
1	「NAV工法」・「NAV-G工法」・「NAV-G工法(UV仕様)」	KT-100023	VG	本技術は、対策後もコンクリート表面の既存ひび割れの進展状況や新たなひび割れ発生等を目視観察できる剥落防止工法である。変状の目視観察による追加対策工の要否を判断でき、透明な耐候性塗料を使用することで紫外線の影響を受ける明かり部へも適用できる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他		[活用促進]	有	□	2021/3/31	群馬県内製造工場→施工現場直送、日本全国への供給可、特殊機材無し		-
2	ボンドKEEPメンテ工法VM-3	SK-110012	VG	本技術は、変性ポリウレア樹脂による柔軟性に富み、広い施工可能温度領域を有するコンクリート片はく落対策工法である。従来は、当該箇所をハツリ撤去後、モルタル等で断面復旧していた。本技術では下地のひび割れや変形に追従性を確保し、通年での施工が可能となった。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[活用促進]	有		2022/3/31	-		-
3	ハイブリッド形表面被覆材アロンブルコートZ-X、Z-Y工法	CB-120013	VG	従来主流のコンクリート表面保護工は、エポキシ樹脂系材料であるが紫外線劣化により割れ剥がれが多く発生している。本工法は、コスト縮減・工程短縮・品質向上・施工性等に着目し開発した材料(セメント系無機質硬化材を主とし、アクリルゴムを混合)を用いる新工法である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[活用促進]	有		2023/3/31	愛知県内製造工場 → 施工現場（全国）		-
4	超薄膜スケルトンはく落防災コーティング	CG-120025	VG	本技術は、透明コーティング材とガラス繊維による塗布接着型シート工法で、コンクリート構造物のはく落対策工事や劣化因子の対策工事に適している。施工後の表面異常が目視により確認できる。塗膜の超薄膜化によってコーティング材の使用量を抑え経済性の向上を果たした。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[活用促進]	有	□	2023/3/31	-		-
5	ワンステップガードエ法	KT-120082	VG	本技術は、特殊有機短繊維を混合したアクリル樹脂を塗布する方式のコンクリート片はく落防止対策工法で、従来は繊維シート接着工法で対応していた。本技術の活用により、シート接着工程が削減ができるので、工程の短縮、経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[活用促進]	有		2023/3/31	製造：群馬県渋川市　→　離島を含む全国へ供給可、特殊機材無し		-
6	無機接着剤使用の剥落防止工法	KT-160123	VR	本工法は、無機接着剤と繊維シートを複合使用した剥落防止工法で、従来は、ポリマーモルタル補修工法対応。本技術の活用により施工後の可視化可能で下地コンクリート・繊維シートの挙動監視が容易となり、後々のメンテナンスが容易になると共に安全・経済性向上が図れる	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工			有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160123
7	ダイナミックレジン ストロンガード工法	KT-160153	VR	本技術は有機系繊維シートを用いて、橋梁やトンネルなどのコンクリート片のはく落を抑制・防止する工法であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、不陸修正工や中塗り塗布工等が削減され、工程の短縮となるため、経済性の向上が図れます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工			有			全国供給可能、特殊機械不要		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-160153
8	タフガードクリヤー工法	KT-170015	VR	本技術は、コンクリート構造物に保護性能を付与すると共に、透明塗膜により視認性を確保する工法です。従来は、エナメル塗膜(有色)による表面保護工法で対応していた。本技術の活用により、目視での簡便かつ正確な調査ができるため、維持管理性の向上が図れます。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-170015
9	ショーボンドハイブリッドシート工法	TH-010017	VG	本技術は、予め工場で製作された特殊ラミネートシートを現場で一層貼り付ける工法で、従来工法の現場積層型の工法に比べて施工工程の削減と品質の向上等を実現しました。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[設計比較][活用促進]	有	◎	2017/4/20	全国。特殊な機械は不要。		-
10	タフガードQ-R工法	KK-040054	VG	中塗りの強靭な塗膜特性及び塗装システムの速硬性により、従来の補強材工程の省略を可能にし、大幅な工期短縮とそれに伴う工事コスト低減を実現しました。また、無溶剤系の中塗り設計によりコテ塗りを可能とし施工性と環境へ配慮しました。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[設計比較][活用促進]	有	◎	2017/4/20	-		-
11	高分子系浸透性防水材 アイゾールEX	CB-030003	VG	撥水効果・コンクリートの表面改質効果を併せ持つ表面被覆材(透湿性を有する水性一液型塗料)が、コンクリートの劣化を抑制する。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[H24準推奨][設計比較][活用促進]	有	○	2017/4/20	材料は大阪府内より出荷、定期航路がある離島を含めた国内全域への供給が可能である。汎用機械で練り混ぜ、施工が可能である。		-
12	SQSシステム工法レジテクトCVスプレー工法	CB-980104	VG	本技術は、超速硬化するポリウレタン系材料を構造物に機械吹付けし、防水膜・保護膜を形成する工法である。本技術により、複雑な形状、埋戻等の土圧等により困難な部位でも信頼性の高い防水効果・表面保護効果及び優れた耐久性が期待できる。	材料	共同溝工	共同溝工（現場打ち）	防水工		評価済み	有	○	2017/4/20	全国250台以上		-
13	ONR工法	KT-990214	VG	本技術は コンクリート構造物に対する断面修復および表面被覆工法で、従来は合成樹脂系塗装工法で対応していた。本技術の活用により、品質の向上が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		評価済み	有	□	2017/4/20	-		-
14	二方向アラミドシート補修・補強工法	CB-000024	VG	二方向アラミドシート工法は、わが国で250件程度の施工実績があり、構造物の耐力の向上を図るとともに疲労による劣化を抑制し、構造体の寿命を延命させることができます。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工		[活用促進]	有	□	2017/4/20	-		-
15	Watercoat(ウォーターコート)	KK-180047	A	本技術は自然界にある約10種類の鉱物を加工した特殊セラミックの性質特徴を活用し水を電気分解し外壁等の表面の凸凹に電気メッキの原理で被膜を作るコーティング技術であり、従来は洗浄を行っていた。本技術の活用により、ライフサイクルコスト削減、品質向上が期待できる	工法	道路維持修繕工	道路清掃工	標識清掃工						生産供給体制：福井県内製造工場⇒技術提供可能地域：全国⇒機械保有台数：60台		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180047
16	光触媒塗料「オプティマスホワイトペイント」(遮熱・断熱・空気清浄化)	KK-180049	A	本技術は光触媒の親水性に加えて、有機物分解機能による空気清浄機能を有した汚れにくい内・外装用塗料製品の技術であり、従来はシリコーン樹脂塗料(2級)であった。本技術の活用により品質の向上、地球環境への影響抑制が期待できる。	材料	建築	塗装工事							-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180049
17	ボンドVMネットレス工法	KK-180053	VR	申請技術は繊維シートの不要なコンクリート片はく落防止工法の技術であり、従来はビニロンシートを用いたはく落防止工法を使用していた。本技術の活用により、経済性、施工性の向上、工程の短縮が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-180053
18	トンネルはく落対策工「ハードメッシュ」	KT-190006	VR	本技術は、高剛性の難燃性炭素繊維製グリッドとガラスメッシュを一体化したネット系のトンネルはく落対策工法で、従来は、はつり落とし工や断面修復工等の補修工法で対応していた。本技術の活用により、施工面全体のはく落防止が可能となるため、安全性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他			有			福井県内工場→施工現場		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190006
19	ポリマーセメント系表面被覆工法「UBEレジスト工法」	TH-190006	A	本技術は、コンクリート構造物の表面部から塩化物イオンや炭酸ガス、水、酸素などの侵入を抑制することで、中性化や塩害などの劣化を抑制するポリマーセメント系表面被覆工法である。従来の表面被覆工事に比べ、工期短縮によるコスト低減が可能である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						受注生産品		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=TH-190006
20	無繊維透明樹脂型コンクリート表面保護・はく落防止工法	CG-190009	VE	コンクリートの表面保護・はく落防止として、繊維シート工法が従来は使用されてきたが、本工法は透明度の高い1成分高強度ウレタン樹脂で構成された工法で、施工後の劣化状況の見える化、2工程、撹拌作業を不要にすることで、工期短縮、人員削減を可能としました。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工		[★ 活用促進]	有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-190009
21	ダイナミックレジン クリアタフレジン工法	KT-190046	A	本技術は特殊透明樹脂と特殊繊維シートの組合わせにより、コンクリート片のはく落を防止する技術であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、施工後下地の劣化状況を目視により確認ができるため、点検及び維持管理が容易となる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他						全国供給可能、特殊機械不要		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190046
22	トンネル小片はく落対策工「FF-TCC工法」	KT-190047	VR	本技術は、高伸度型シートとウレタン樹脂を用いたトンネル小片はく落対策工法で、従来は、はつり落とし工や断面修復工等の補修工法で対応していた。本技術の活用により、はく落魂への追従性が高く、透明樹脂により変状確認がし易いため、安全性および施工性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他			有			福井県内製造工場→施工現場		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190047
23	ライフテックス水性はく落対策工法	KT-190117	A	本技術は、全工程を非危険物で構成した水性はく落対策工法で、従来は危険物を使用したはく落対策工法で対応していた。本技術の活用により施工時の火災への安全性が向上し、作業員の人体への安全性、周囲環境への負荷を低減できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	断面修復工						-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190117
24	補強型コンクリートはく落防止工法	QS-200020	A	本技術は、表面保護工（コンクリート）に関する技術である。ポリイソシアネート化合物と、活性水素を持つアミン化合物をスプレーガン内で混合させ、化学反応によりポリウレア樹脂を生成し、コンクリート表面に強靭な被膜を形成し、長寿命化を実現する工法である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						福岡県内製造工場　→　北九州市内倉庫　→　施工現場 機械保有台数　9台		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-200020

表面被覆工　九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

□ 工法比較表対象技術　　□ 新規対象技術（調査中）　　□ 削除技

令和8年10月現在

※「活用状況（本省）」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆＝500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上

（注）NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	AVG	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類1 Lv.2	分類1 Lv.3	分類1 Lv.4	技術の位置づけ	活用効果評価	活用状況（本省）※	掲載期間終了技術（終了時期）	生産供給体制（機械保有台数等）	備　考	NETIS HPリンク先（注）
25	コンクリート保護シート「KYŌZIN」	KT-200107	A	本技術は、コンクリート構造物の劣化を防止する高耐久性塗料をシート化したコンクリート保護シートで、従来はコンクリート保護用の表面被覆塗料で対応していた。本技術の活用により、構造物の表面に保護シートを貼るだけの施工となるため、施工性の向上が図れる。	製品	道路維持修繕工	道路付属物のコンクリート面塗装工							滋賀県内製造工場→施工現場		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-200107
26	コンクリートプロテクト工法	KK-200050	A	本技術は、コンクリート表面にポリウレア樹脂を塗布し耐久性・防水性・耐摩耗性を向上させる工法技術であり、従来はエポキシ樹脂とガラスクロスを用いた保護工法(手塗り工法)であった。本技術の活用により経済性、品質、施工性向上、周辺環境影響抑制、工程短縮が期待できる。	工法	道路維持修繕工	道路付属物のコンクリート面塗装工							-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-200050
27	ボンドVMクリア工法	KT-210065	VR	本技術は、強靭で耐候性に優れる透明なウレアウレタン樹脂を用いたコンクリート片剥落防止工法で、従来はビニロンネットと不透明な樹脂で対応していた。本技術の活用により、下地の視認、工期短縮が可能となり、安全性、経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工			有			-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210065
28	下地視認可能型省工程剥落防止工法 ダイナミックレジン クリアタフレジンクイック	KT-210087	A	本技術は特殊透明樹脂によりコンクリート片のはく落を防止する技術であり、従来はガラスクロス接着工法で対応していた。本技術の活用により、施工後に下地の劣化状況を目視確認できるため、点検及び維持管理が容易となり、また工程も短縮されているため、経済性も向上する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他						全国供給可能、特殊機械不要		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-210087
29	ポリウレア樹脂を用いたコンクリート構造物の機能保持・向上技術「タフネスコート工法」	QS-210065	A	本技術は表面保護工法に関する技術である。タフネスコートをコンクリート構造物表面に吹き付けることにより、剥落防止、貯水性確保、耐久性及び耐衝撃性向上といった機能をもたらすことができる。本技術の活用により、維持管理コストの低減並びに長寿命化を図ることができる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-210065
30	コンクリート構造物補修材料EXGリペアシリーズ	KT-220034	A	本技術は、補修部分が湿潤状態でも施工が可能な水性エポキシ、水性アクリル製の補修材で、従来は表面被覆工（コンクリート保護塗装CC-B）で対応していた。本技術の活用により補修部分は、湿潤面での乾燥、塩害面での塩分除去洗浄が不要となる為、工程が短縮する。	材料	コンクリート工	その他							10トン以上／月産、全国供給可能		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220034
31	コンクリート打放し用の仕上げ材「シェルトクリヤ」	KT-220060	A	本技術は、コンクリート構造物の表面を水分や塩分等から保護する水性のクリヤ塗料で、従来は、シラン系表面含浸材で対応していた。本技術の活用により、コンクリートの中性化および塩分の浸透を抑制する効果が高く、低VOC材料であるため、品質および安全性の向上が図れる。	材料	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						全国に供給可能。塗装用ローラーがあれば施工可能。特殊な機器等は不要。		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220060
32	シリコーン樹脂を用いた「バッファーコート」工法	KT-220094	A	本技術は、鋼橋やコンクリート構造物の防食および表面保護を行うシリコーン樹脂のコーティング工法で、従来は、塗替塗装（C-5系(重防食塗装)）で対応していた。本技術の活用により、3層の塗膜層でも40年以上の長期耐久性が確保できるため、品質および経済性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他						特に問題なし		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220094
33	コンクリート用有機系表面保護材「U-レジストクリアコート／ガード」	CG-220023	A	本技術は、エポキシ樹脂と強靭なウレタン樹脂を主材料に用い、コンクリートへの劣化因子の侵入防止と、はく落防止の両方が可能となる表面保護技術である。塗膜が透明でメッシュも使用しないため、施工後の構造物の点検が容易で、工期短縮・施工費の削減も可能である。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						日本全国		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-220023
34	ポリウレア樹脂による剥落防止工法	KK-230027	A	本技術は、コンクリート構造物に高強度のポリウレア樹脂を吹付けて剥落を防止する工法で、従来は連続繊維シート工法で対応していた。本技術の活用により樹脂の塗り重ねや連続シートの含浸接着の工程が省略でき、工程短縮及び経済性・施工性の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						施工業者にてグラコの吹付機械を有しております。 全国に施工業者は展開済みで、地区の施工業者が対応致します。		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-230027
35	省工程剥落防止対策「STUクリアシート-S工法」	KT-230146	A	本技術は連続繊維を樹脂でラミネートしたほぼ透明のシート1層を消防法上非危険物となる接着剤で貼付けるだけの剥落防止工法である。従来は連続繊維シート含浸工法で対応していた。本技術の活用により、コスト縮減と工期の短縮、火災事故への安全性が向上する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工						日本国内供給可能。特殊機械は不要		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-230146
36	コンクリート構造物簡易補修材「タフガードリペアスプレー」	KT-230168	A	本技術はコンクリート剥離部や鉄筋露出部に塗装し簡易的な剥落防止対策や防食効果がある1液エアゾールスプレー缶タイプ補修材で、従来は高濃度亜鉛末錆止めスプレーで行っていた。本技術の活用により本格補修までの間、躯体再劣化・剥落を予防できるため安全性が向上する。	製品	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他						-		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-230168
37	透明なはく落防止対策「ニュークリアクロス工法」	KT-230176	A	本技術は、コンクリートはく落防止対策工について、含浸により透明になるビニロン繊維シートを用いた技術である。従来は有色のビニロン繊維シートで行っていた。本技術の活用により構造物の表面性状を目視で観察することが可能なため、施工性（維持管理時）の向上が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工						日本全国		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-230176
38	コンクリート構造物の表面保護材「セラマックスFT70（塗るゴム）」	QS-240009	A	本技術は、橋梁補修工（表面被覆工）に関する技術である。従来は3層塗布が必要であったが、1層塗布による表面被覆工が可能であるため、省力化により施工性の向上および工程の短縮が可能である。また、塗料に有機溶剤の含有量が少ないため、周辺環境への影響が軽減できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						日本全国		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-240009
39	ネットレスはく落対策「ワンバインドスプレー工法」	KK-240043	A	本技術は、コンクリート構造物に薄層でも強靭な塗膜を形成するポリウレアウレタン樹脂を吹付けてはく落を防止する工法である。薄層塗布で所定の押し抜き性能を確保し、有害ガスの発生量が抑えられるためトンネル坑内でも使用できる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240043
40	水性樹脂を用いた省工程型のはく落防止工法	KK-240050	A	本技術は、コンクリート剥落防止工法であり、従来は、多工程で、溶剤型樹脂塗料を使用する繊維シート工法で対応していた。本技術の活用により、省工程施工よる工程短縮の実現と、水性樹脂塗料を使用することによる、周辺、作業環境への影響の低減、安全性の向上が期待できる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工						日本全国		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240050
41	ONR工法 はく落防止仕様V2	KK-240055	A	本技術は、ポリエーテルアクリル系塗装材と高弾性ビニロン繊維シートを採用したはく落防止工法である。従来のエポキシ樹脂含浸材と炭素繊維シートを用いた連続繊維シート工法と比べて、本技術の活用により、工期短縮による省人化や材料の変更によりコスト削減が可能となる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						日本全国		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240055
42	BMシート工法	KK-240058	A	コンクリート構造物におけるバサルトメッシュおよび高分子系浸透性防水材を用いた剥落防止工法で、従来は連続繊維シート工法で対応していた。本技術の活用により、工期短縮とコストダウン、および安全性・施工性の向上と周辺環境への影響抑制が図れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工						材料は大阪府内より出荷、定期航路がある離島を含めた国内全域への供給が可能である。汎用機械で練り混ぜ、施工が可能である。		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240058
43	表面被覆工法「シリコンガードシステム」	KK-240075	A	本技術は、水系材料を用いたコンクリート構造物の表面被覆工法であり、従来はCC-B塗装で対応していた。本技術の活用により、すべて水系材料で構成し塗布層数も比較的少ないため経済性・安全性・施工性・品質が向上し、工程短縮と環境への影響抑制に優れる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						日本全国		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240075
44	補強布を用いないFRP防食工法	KK-240076	A	本技術はローラー・刷毛・コテ等で塗装することで、防食被膜を形成するコンクリート構造物等の防食被覆工法で、従来技術で必要とされたガラスマットの裁断、割付、含浸脱泡工程を省略することが出来る。本技術の活用により、作業性の向上、コストの低減が期待できる。	工法	上下水道工	維持管理							大阪府内製造工場⇒施工現場へ		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240076
45	コンクリート補強用2方向炭素繊維シート「FFシートCR240」	KK-240092	A	本技術は、内面補強工に用いる1層貼りが可能な2方向炭素繊維シートで、従来は1方向炭素繊維シートの2層貼りで対応していた。本技術の活用により、2層貼りから1層貼りへ縮減でき、省力化となるため、経済性、施工性、品質の向上、工程の短縮が図られる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240092
46	冬季施工用トンネル補強用炭素繊維「ガイナCFシート工法-H」	KK-240112	A	本工法は、炭素繊維シートをコンクリート面に貼付し、2液主剤型アクリル樹脂を塗布してFRP化させて補強する工法で、従来はエポキシ樹脂を使用していた。本技術の活用により、5℃未満でも樹脂が硬化するので、冬季施工の施工性向上と作業環境の改善が図れる。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-240112
47	コンクリート用化粧材NURUCON(ヌルコン)	KK-250009	A	本技術は水性で一液型のコンクリート用の付着力が大きい速乾性塗料で、従来はCC-B塗装を行っていた。本技術の活用により、工程短縮と経済性・品質・施工性が向上し、環境負荷が低減する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	表面保護工						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-250009
48	ポリマーセメント系ハイブリッド防水材「スーパースプレダム工法」	KK-250062	A	本技術はコンクリート構造物におけるポリマーセメント系防水材の表面被覆・含浸工法で、完全無溶剤の工法であり、従来使用されてきた有機溶剤を使用せず、短期間で施工できる。本技術の活用により、品質、経済性、安全性の向上、環境への影響低減、工期短縮が図れる。	工法	道路維持修繕工	横断歩道橋補修工							／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-250062

表面被覆工　九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

□ 工法比較表対象技術　　□ 新規対象技術（調査中）　　□ 削除技

令和8年10月現在

※「活用状況（本省）」欄にNETIS掲載期間内の大まかな活用件数を記す。☆＝500件以上、◎=100件以上、〇=50件以上、□=20件以上

（注）NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	AVG	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類1 Lv.2	分類1 Lv.3	分類1 Lv.4	技術の位置づけ	活用効果評価	活用状況（本省）※	掲載期間終了技術（終了時期）	生産供給体制（機械保有台数等）	備　考	NETIS HPリンク先（注）
49	レディアンコート	HK-250007	A	本技術は、コンクリート構造物や鋼構造物の外装用塗料であり、従来はふっ素樹脂塗料で対応していた。本技術の活用により、環境への影響、安全性、品質の向上が期待できる。	材料	付属施設	道路付属物工							／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=HK-250007
50	ボンド KEEPメンテ工法 VM-4	KK-250076	A	本技術は、橋梁やトンネル内のコンクリート構造物の小片剥落防止技術であり、従来は連続繊維シート工法であった。本技術の活用により変成シリコン・エポキシ樹脂による接着剤を使用することで従来の上塗工が必要なくなるため、工数が削減され経済性が向上し工程短縮となる。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	その他						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-250076
51	ボンド KEEPメンテ工法 SF－ONE	KK-260023	A	本技術は、既設コンクリートのはく落防止工で、1液型ポリウレアウレタン樹脂を用い1工程で、耐久性、自己消火性があり、透明で下地視認性の高い工法で、従来は連続シート工法であった。本技術の活用により、工程短縮とともに、経済性・品質・安全性・施工性が向上する。	工法	道路維持修繕工	トンネル補修補強工	その他						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-260023
52	T-Oneクリアカラー工法	KK-260026	A	本技術は、既設コンクリートの剥落防止・表面保護工で、プライマー不要で半透明に仕上げる工法で、従来は着色不透明で対応していた。本技術の活用により、効率的な作業となり、また維持管理において変状を近接目視できるため、経済性・品質が向上し工程が短縮する。	工法	道路維持修繕工	橋梁補修補強工	新素材繊維接着工						／		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-260026